

あいち農産物生産流通レポート

令和2年9月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ スプレーギク新品種「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ 尾張管内果樹の販促資材を作成 (尾張農林水産事務所)	3
・ 県内トッブを切って新米出荷！あいち米初出荷式が開催されました！ (海部農林水産事務所)	4
◎ 東日本情報	
・ 令和元年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言(その2) (東京事務所)	5
◎ 西日本情報	
・ 6次産業化による(有)下村畜産の直営焼き肉店 (食育消費流通課)	7
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)	22

※今月、「フラワーページ」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

スプレーギク新品種「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場は、スプレーギク新品種「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発し、2020年6月17日付けで品種登録出願を行いました。

「スプレー愛知夏2号」は7月から9月が出荷期の夏秋系品種で、夏季高温期においても美しい花の色や形を長く保ち、安定した出荷が可能です。

「アイセイカーラ」は、10月から6月が出荷期の秋系品種で、美しい花の姿に加え、商品性を著しく低下させるキク矮化（わいか）病に極めて強く、本病を心配すること無く栽培ができます。

なお、「アイセイカーラ」はイノチオ精興園株式会社と共同研究で開発しました。



「スプレー愛知夏2号」



「アイセイカーラ」

1 「スプレー愛知夏2号」の特徴と開発の経緯

(1) 新品種の特徴

ア 7月から9月の高温期でも、花びらは美しいピンク色を保ちます。また、暑さによる開花の遅れが少なく、安定して出荷できます。



「スプレー愛知夏2号」
高温でも花色が鮮やか



通常の品種
高温により花色が退色

イ 花びらが斜め上を向き、開花が進んでも垂れず、美しい花の形を長く楽しむことができます。

ウ 花持ちは、従来の夏秋系品種と同程度で、2～3週間ほど観賞できます。

(2) 開発の経緯

夏秋系品種は夏季に開花・出荷しますが、ピンク色品種は、高温により花びらの色が薄くなります。また、近年夏季が高温になり、開花の遅れや、芽焼け、葉焼けなどの障害の発生が増加しています。そこで、高温期でも花びらが美しいピンク色を保ち、障害が少なく、花の形も良い夏秋系品種の育成を目標としました。

「スプレー愛知夏2号」は、2015年から育成を開始し、愛知県花き温室園芸組合連合会スプレーマム部会の協力を得て選抜・現地試験栽培を繰り返し、約4年間かけて開発しました。

2 「アイセイカーラ」の特徴と開発の経緯

(1) 新品種の特徴

ア キク矮化病に強い抵抗性を示し、感染、発病しません。

イ 寒い時期にも茎がよく伸び、安定して出荷できます。

ウ 花持ちは、従来の秋系品種と同程度で、3週間ほど観賞できます。

(2) 開発の経緯

キク矮化ウイルス (Chrysanthemum stunt viroid) によって引き起こされるキク矮化病は、全国的に被害が報告されています。健全なキクに比べ草丈が低くなり、一旦発病すると完治しないため、生産者から強い抵抗性を持つスプレーギク品種の早期開発が望まれていました。

そこで、2016年からキク矮化病抵抗性の育種素材を保有するイノチオ精興園株式会社と共同で、本病の抵抗性を有し商品性に優れた品種の育成に取り組みました。

同年に、生育旺盛で花形の良い系統と本病に強い抵抗性を持つ系統との交配を行い、以後選抜・現地試験栽培を行い「アイセイカーラ」を開発しました。



健全株

キク矮化病発病株

3 今後の普及計画

(1) 2021年度から本格的に出荷を開始し、同年にはそれぞれ5万本を出荷する計画です。

(2) 「スプレー愛知夏2号」は2024年度に50万本、「アイセイカーラ」は2025年度に100万本の出荷を目標としています。

尾張管内果樹の販促資材を作成

尾張農林水産事務所

尾張果樹振興会（農政課内に事務局）は、管内果樹産地のPRと果実の消費拡大のため、会員の直売所等で配布できるクリアファイルを作成しました。

デザインは、愛知県果樹振興会及びあいちのフルーツコンテスト実行委員会が作成したクリアファイルのものをベースに、裏面の果物リレーカレンダーに尾張地域の産地を赤字で掲載しました（図1）。

1 クリアファイル作成のきっかけ

「あいちのフルーツクリアファイル」について、尾張果樹振興会の会員から多くの配布要望があり、また、新型コロナウイルス感染症の影響による管内産果実の消費減退が心配されることから、尾張管内果樹のPR資材として本会独自のクリアファイルを1,500部（4種類各375部）作成することになりました。



尾張果樹振興会で作成したクリアファイル

2 活用方法

尾張果樹振興会の会員へ配布しました。

また、関係機関にもサンプルとして配布しました。なお、600部（4種各150部）ほどの在庫についても、会員から配布希望を募って随時配布をする予定です。

会員からは、直売施設や小学生向けの体験教室で配布したいという話も出ており、消費者に対する管内の果樹産地のPR及び果物の消費拡大のきっかけになることが期待されます。

現在、尾張果樹振興会の単独事業として予定していた研究会等を新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、相次いで書面開催及び中止しています。そのような状況下でも農政課は今できることを考え、尾張果樹振興会とともに生産者の農産物の品質向上及び販売の支援を実施していきます。

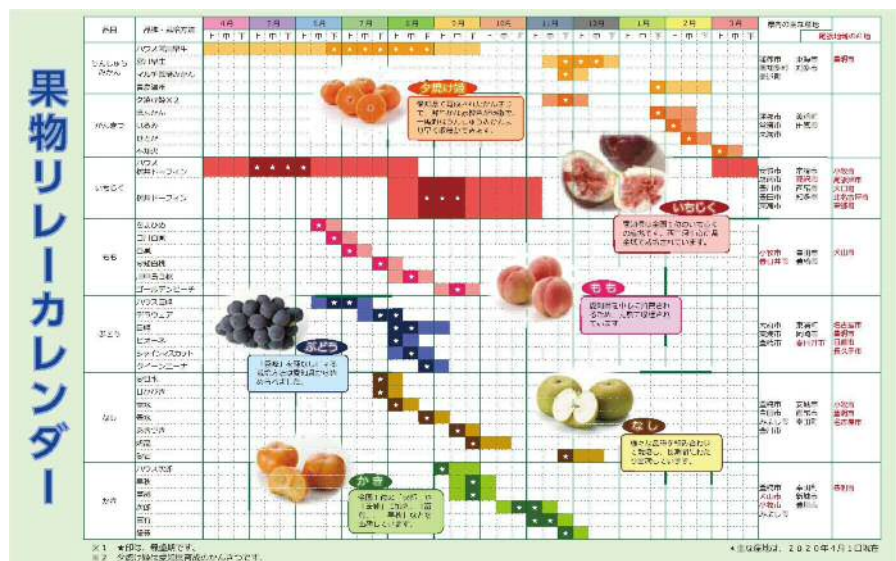


図1 右端に尾張管内の産地を赤字で掲載

県内トップを切って新米出荷！

あいち米初出荷式が開催されました！

海部農林水産事務所

愛知県では、8月上旬から10月にかけて「あいちの新米」の収穫が続きます。

早場米の産地である弥富市鍋田では、令和2年8月11日（火）に県内のトップを切って今年の新米が出荷されました。

J Aあいち海部鍋田支店集出荷場で、J Aあいち海部、J Aあいち経済連の主催により、あいち米の初出荷式が開催されました。初出荷式には、管内の出荷関係者のほか、朝日県議（弥富市）、中根農業水産局長などの県関係者も臨席しました。

一日検査員を委嘱されたあいち米生産者代表の「あぐり父さん」による出荷米の検査、出席者によるテープカットなどのセレモニーが行われた後、「あきたこまち」2,023袋（1袋30kg）を積んだトラックが集出荷場から出発しました。出荷された米はすべて1等米で、翌日12日からAコープを始めとした県内スーパーで販売されます。

J Aあいち海部鍋田支店管内では、約323haの作付面積のうち早場米の「あきたこまち」と「コシヒカリ」が9割近くを占め、「あきたこまち」を皮切りに新米の収穫が始まります。本年産の「あきたこまち」は、梅雨入り後、平年と比べ低温で日照も少ない状態が続き心配されましたが、梅雨明け後は、高温が続く、登熟は進み、収量は平年並みで、品質は良好でした。

例年は消費者交流会で夏休みの子供たち家族連れの出荷者への新米試食会が開催されますが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため中止されました。



あぐり父さんの出荷米検査



出発式でのテープカット

令和元年度京浜市場での愛知県秋冬野菜の販売結果及び提言（その2）

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

「京浜市場愛知県野菜連絡会」（構成：首都圏の青果卸売会社 30 社及び J A あいち経済連、愛知県）がとりまとめた令和元年度（対象期間：令和元年 6 月～令和 2 年 5 月）の愛知県産主要野菜の販売概要から、前回はキャベツ、トマト、ミニトマトについて取り上げました。今回は、ブロッコリー、カリフラワーとレタス類について取り上げます。

1 ブロッコリー

(1) 競合産地の動向

熊本、長崎を中心とした九州産地は、担い手・労働力確保が課題となるものの、長期的に見れば作付け意欲は依然として高い。

香川県は、昨年度 1,300ha～1,400ha まで作付面積が増えた中、今後もレタスからの転作が続くと思われる。

近年、商系産地中心ではあるが、これまで氷詰出荷（出荷容器に氷を敷き詰めての出荷）をしていなかった埼玉県などの産地が氷詰出荷を検討している。

(2) 販売・消費動向

新型コロナウイルス感染症の影響で家庭内消費が伸びた中、ブロッコリーは大きな恩恵を受けた感があり、現状（6 月下旬時点）でも順調な販売、価格となっている。今後も消費動向が大きく変わることは考えにくいと、スーパー・量販店を中心とした需要は増えると思われる。

(3) 卸売会社から愛知県への提言

愛知県産には、秋冬産地のトップブランドとして多くのファンがいる。全国的に氷詰出荷へ転換している中、愛知県産は氷詰でなくとも品質の信頼度があり、各顧客への販売量の確保がしっかりできれば、優先的に販売していただけると考えている。そのためにも、契約販売、事前提案販売を積極的に行うとともに、販売数量についての正確な情報提供をお願いしたい。

2 カリフラワー

(1) 競合産地の動向

茨城県産の作付面積は横ばいであった。千葉県飯岡地区は作付け不良で面積が減り、出荷数量も減少した。暖冬の影響により熊本県八代地域、群馬県渋川地区などの競合産地は前進出荷で出荷量が増加した。熊本県の作付面積は春作も含め増加傾向である。

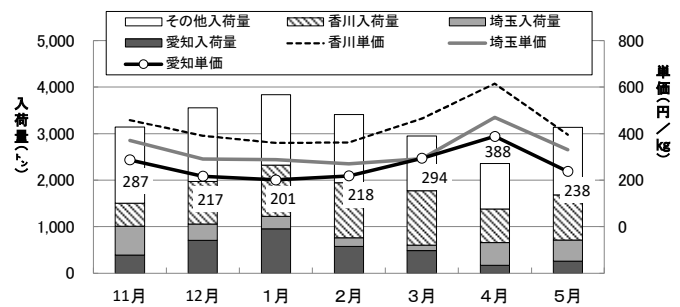


図1 ブロッコリーの産地別入荷量と単価の推移

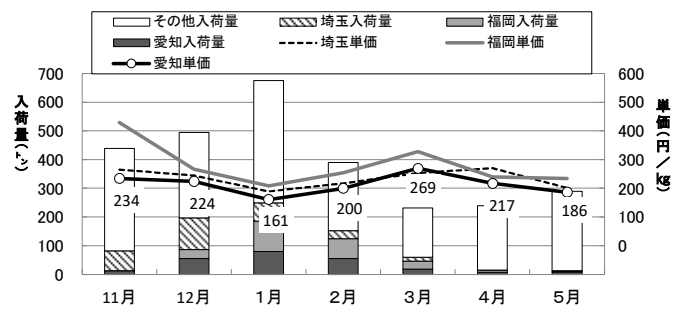


図2 カリフラワーの産地別入荷量と単価の推移

(2) 販売・消費動向

量販店では1玉200円が提案しやすく、1玉250円を超えると動きが弱くなり、売場の縮小につながる傾向があった。

暖冬の影響で青果物全般の価格が安く売場を取り合う状況となり、思うように売り込むことが出来ない状況であった。しかし、年々花野菜の需要が高まっているため、注文自体は増加傾向であった。

(3) 卸売会社から愛知県への提言

需要の増加のため、また、どの階級にも固定した顧客がいるため、引き続き安定した出荷、8玉中心にバランスのとれた出荷をお願いしたい。

例年になりつつある暖冬に備えて、今後も週間提案の販売を考える必要があるため、翌週、翌々週の情報を正確に教えて欲しい。

ロマネスコや色つきのカリフラワーは、クリスマス前、成人式にのみ需要が高まるため、その時期での出荷をお願いしたい。

3 レタス

(1) 競合産地の動向

兵庫県、香川県は微減傾向で、茨城県も長ネギの出荷期間が伸びているためレタスは微減となっている。一方、九州地区、静岡県は横ばいである。また、台湾は加工・業務用の不振により減少傾向である。

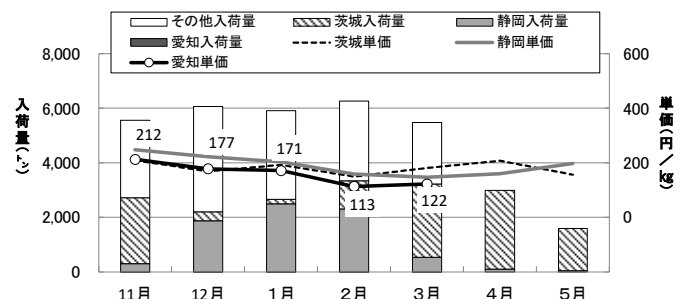


図3 レタスの産地別入荷量と単価の推移

(2) 販売・消費動向

量販店での消費は横ばいの状況である一方、加工・業務用や外食需要は減少傾向である。コンビニエンスストアやドラッグストアなど販売先が多様化している。

(3) 卸売会社から愛知県への提言

最低限の生産量の維持を希望する。

4 リーフ系レタス

(1) 競合産地の動向

加工・業務用、外食向け納入の動きが年々弱くなり契約取引が縮小している。そのため浮いた分がレギュラーで増加している産地もあれば、作付けの計画を下方修正している産地もある。特にグリーンリーフは影響が色濃く出ているため全国的に減少した。

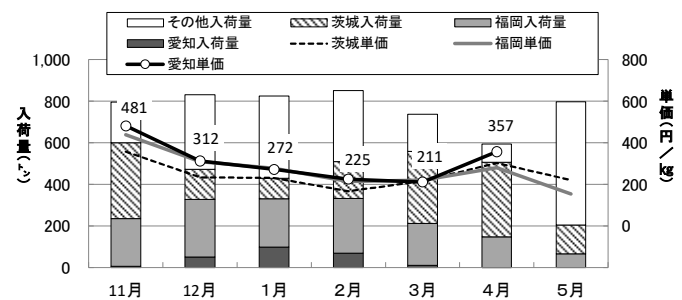


図4 リーフ系レタスの産地別入荷量と単価の推移

(2) 販売・消費動向

加工・業務用の動きがない中で量販店一辺倒の販売となった。売価は定番198円だったので特売等の提案はあまりやすかったが、それ以外の通常日はあまり売れていなかった。

(3) 卸売会社から愛知県への提言

次年度もこれまで同様の量、品質をお願いしたい。

6次産業化による(有)下村畜産の直営焼き肉店

食育消費流通課

(有)下村畜産は、「安心して美味しい牛肉」を実現するため、自社で繁殖から肥育までの一貫生産を行い「下村牛」としてブランド化に取り組んでいます。

このたび、食料産業・6次産業化交付金を活用し、昨年4月にオープンした焼肉店及び精肉販売施設「下村牧場直営焼肉店 三代目下村牛」をご紹介します。

1 「下村牛」生産へのこだわり

大府市に本社を置く(有)下村畜産は、県内及び長野県の4か所の牧場で約1,200頭の和牛を飼養しています。同社では、サトウキビやパイナップル粕などをブレンドさせた独自配合の飼料により、旨み成分であるグルタミン酸が多く含まれた肉質になるよう、こだわった生産を行っています。

同社専務の下村知士氏は、県内外の農家と連携してグループを組み、子牛の仕入れコストを削減し、情報通信技術を活用した牛の発情や分娩の把握、ストレスの少ない環境整備を徹底する等、高品質な和牛を効率的に生産する取り組みを行っています。

こうした取り組みが評価され、新しい農業と地域振興に取り組む青年農業者を表彰する第七十九回中日農業賞（中日新聞社主催）で、最高賞に次ぐ中日賞を受賞しました。

2 6次産業化へ向けて

同社は、自社で生産した高品質な和牛の価値を直接消費者に伝えたいとの思いから、自社生産の牛肉を使用する焼肉店の開業を希望し、県が設置する「愛知県6次産業化サポートセンター」の支援を受けながら準備を進めました。これにより、平成29年6月に六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画*の認定を受けるとともに、食料産業・6次産業化交付金を活用し、平成31年4月に焼肉店及び精肉販売施設「下村牧場直営焼肉店 三代目下村牛」をオープンさせました。



「下村牧場直営焼肉店 三代目下村牛」

*「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」（六次産業化・地産地消法）に基づき、農林漁業者等が農林漁業経営の改善を図るために行う総合化事業についての計画

3 「下村牧場直営焼肉店 三代目下村牛」

焼肉店のコンセプトは「味」と「値打ち感」。高品質な下村牛の名前と味を知ってもらうため、直営店の利点を活かし、手の届きやすい価格で販売しています。

併設する加工場では、事業者向けの加工販売を行うほか、店舗内の直売所において、下村牛の精肉販売も行っています。

同店では、国が設置する「6次産業化中央サポートセンター」の支援も受けながら、接客マニュアルの作成やポイントカードの導入等、常に経営改善に取り組んでいます。

オープン以来、夫婦や家族連れを中心に来店客数や売上金額ともに順調に伸びており、新型コロナウイルス感染症対策として、テイクアウトや値下げを行ったところ、令和2年5月には過去最高の月間売上を記録しました。下村さんは、「今後は、生産コストを下げ、和牛の新しい文化を作っていきたい」と意気込みを語っています。

県としましては、農林漁業者等の所得向上に向けて、6次産業化プランナー*による経営アドバイスや研修会等により、引き続き6次産業化の取組を支援していきます。

*農林水産物の生産や加工品の流通、マーケティング、経営管理についての知見を持つ中小企業診断士等の専門家

「下村牧場直営焼肉店 三代目下村牛」の概要

施設規模：敷地面積 1,194m²、焼肉店床面積 308.25m²

席 数：116 席

(テーブル 50 席、小上がり 30 席、個室 36 席)

場 所：大府市柘山町3丁目381番地1号

開 業 日：平成31年4月25日

営業時間：午前11時から午後2時、

午後5時から午後11時 (定休日：水曜日)

メニュー：下村牛カルビ、下村牛ぷるぷるホルモン、日替わり希少部位等

*令和2年8月時点

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台
 やや : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：いちじく）

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
元年実績	384	384 (100%)	941	— — —
2年見通し	400	—	900	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知からはほぼ全量を入荷する。7月の長梅雨明けからの天候に恵まれ、潤沢に入荷している。雨が少なく、適度な温度もあったため、果実は小玉傾向にあるが品質は非常に良い。今年は例年になく前進傾向で、8月下旬の入荷量は平年より1割程度減少する見込み。9月も同様で、10月中旬には終了するか。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>		<p>本年は例年になく前進出荷しており、早い産地では全体の半数近くを出荷している。スーパー等の売り場においても品薄の状態であり、品物がない場合もあることから、産地には安定した出荷をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（ぎんなん）

	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
元年実績	287	105 (37%)	1,563	静岡 (12%) 茨城 (9%) 埼玉 (8%)
2年見通し	220	—	1,250	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産の入荷は、8月下旬から始まり、9月から本格化、10月にピークを迎える。本年は、開花期の天候に恵まれたものの、開花がばらついたため着果不良となっている。主要品種のひとつである「久寿」で特に着果量が少なく、出荷量は全体的にも平年より大幅に少ないと見込まれる。 新型コロナウイルス感染症の影響で業務需要が弱いことから、価格は伸び悩むと予想される。 入荷量は少なかった前年を大幅に下回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>		<p>ぎんなんは秋の味覚として業務筋を中心に人気が高く、量販でも10月～11月に需要が強まる。品質・選別ともに良好で、今後も継続した取組をお願いしたい。 9月は高温、多湿の日が多く、カビの発生が懸念される。磨きのムラがカビの発生を助長するため、出荷に際しては選別や品質保持の徹底をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し

名古屋市中央卸売市場

8月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	35,201	258	249	264	251	北海道 43%
	28年	34,546	246	255	253	227	長野 24%
	29年	35,398	223	243	229	200	群馬 9%
	30年	32,706	257	265	262	242	青森 5%
	元年	34,117	231	235	239	216	岐阜 4%
	5ヵ年平均	34,394	243	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	32,400	240	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に長野などから入荷する。7月の長雨や日照不足、8月の猛暑の影響で大半の品目で入荷減を見込む。北海道は生育順調で、入荷量は前年並の見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							
だいこん	27年	2,179	112	114	116	113	青森 48%
	28年	1,704	133	131	136	143	北海道 41%
	29年	2,009	99	97	121	89	岐阜 9%
	30年	1,997	113	118	118	111	長野 2%
	元年	2,045	83	84	80	91	
	5ヵ年平均	1,987	107	108	113	108	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,900	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、青森を中心に入荷する。北海道は栽培面積の減少により、入荷量が減少し高値の予想。青森は端境期となる。岐阜は新型コロナウイルス感染症の影響による人手不足で入荷量が減少する見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							
にんじん	27年	2,182	159	167	170	146	北海道 100%
	28年	1,263	336	282	388	342	
	29年	2,412	89	84	91	92	
	30年	1,773	194	157	202	218	
	元年	2,134	118	127	129	103	
	5ヵ年平均	1,953	162	151	176	162	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	150	150	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からほぼ全量を入荷する。生育は順調で、7月から高値が続いている。8月は学校給食もあり、2Lサイズを中心に入荷した。干ばつの影響で2Lサイズが少なく、太物が高値の予想。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	133,468	284	277	297	280	北海道 31%
	28年	131,610	270	261	270	279	長野 16%
	29年	137,023	240	261	249	212	群馬 15%
	30年	121,299	282	289	290	267	青森 7%
	元年	124,781	257	269	255	246	茨城 6%
	5ヵ年平均	129,636	266	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	129,000	260	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北日本、関東周辺高冷地からの入荷となる。8月の高温、干ばつから、9月は気温低下と降雨により各品目回復し、潤沢な入荷が見込まれる。懸念材料は台風。北海道の土物類は前年同様に豊作傾向。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
だいこん	27年	13,486	110	111	110	110	北海道 59%
	28年	11,218	134	131	133	136	青森 36%
	29年	11,768	97	100	109	83	岩手 4%
	30年	10,201	115	126	114	108	群馬 1%
	元年	10,109	87	92	78	91	
	5ヵ年平均	11,356	109	112	109	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	11,000	105	110	105	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、青森からの入荷が中心となる。一部産地では長雨で播種作業が進まなかったものの他産地は順調に生育。高温による軟腐病等の発生が懸念されるが、入荷は大きな端境なく続く見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
にんじん	27年	7,847	155	160	163	141	北海道 97%
	28年	6,359	271	223	304	291	中国 2%
	29年	8,657	82	78	79	88	千葉 1%
	30年	6,148	183	151	190	207	
	元年	7,122	120	115	124	120	
	5ヵ年平均	7,227	156	141	165	162	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,000	140	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。生育は概ね順調も、一部にはやや肥大の遅れる産地があり全体的にも小ぶり傾向。雨をもらえば肥大進む。入荷は安定して続く見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

8月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	27年	2,141	133	131	171	110	長野 97%	
	28年	2,198	91	83	103	94	北海道 3%	
	29年	2,470	107	120	123	90		
	30年	2,468	113	99	108	127		
	元年	2,826	104	132	90	96		
	5ヵ年平均	2,421	109	114	117	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	2,400	120	120	120			
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>長野を中心に入荷する。長野は7月の長雨と8月の急激な高温により、生育状況は良くない。8月現在の入荷物は小玉傾向だが、この傾向が9月も続く見込みで、入荷量は潤沢な入荷となった前年を下回るか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
	キヤベツ	27年	4,304	134	117	142	150	群馬 61%
28年		4,472	99	91	109	102	長野 23%	
29年		4,574	97	95	106	92	北海道 15%	
30年		4,851	85	84	87	85	茨城 1%	
元年		4,216	95	102	100	87		
5ヵ年平均		4,483	102	97	108	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		4,000	100	100	100			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。群馬と長野は長梅雨と日照不足の影響で生育状況は良くない。今後の天候次第だが、9月下旬にはある程度回復し、順調な入荷が予想される。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>								
ほうれんそう		27年	173	859	845	952	843	岐阜 87%
	28年	149	902	980	923	834	愛知 5%	
	29年	187	797	860	817	751	茨城 3%	
	30年	145	892	867	966	872	長野 3%	
	元年	166	839	932	833	793	静岡 1%	
	5ヵ年平均	164	854	894	894	815	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	160	860	900	850	850		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>岐阜の飛騨地域を中心に入荷する。岐阜は8月上旬の高温で生育状況が良くなく、品質低下が懸念される。気温が下がれば平年並の入荷となるか。9月も新型コロナウイルス感染症の影響で販売が厳しい予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

8月31日現在

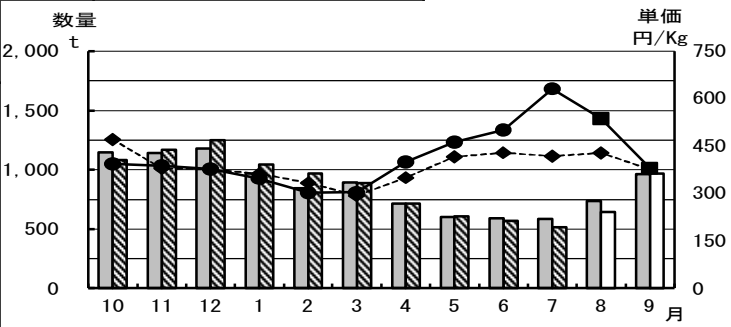
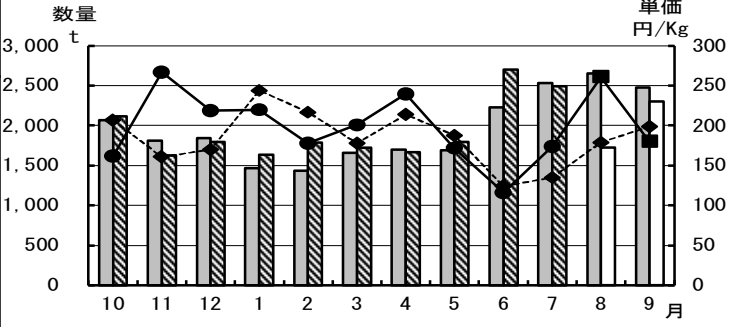
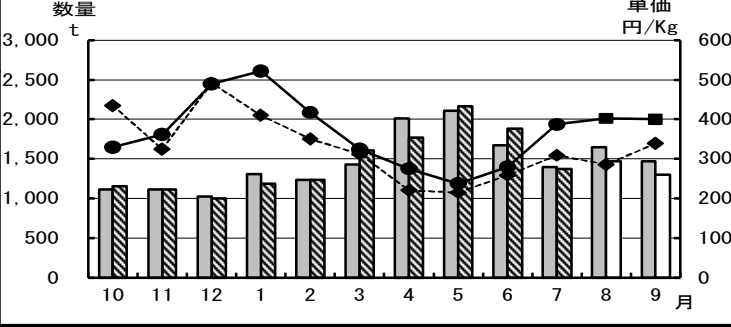
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	27年	10,601	127	120	155	108	長野 87%
	28年	10,490	91	76	103	91	北海道 9%
	29年	10,701	103	117	118	83	群馬 3%
	30年	10,869	111	103	106	122	
	元年	10,177	101	92	90	126	
	5ヵ年平均	10,568	107	102	115	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	10,000	110	150	100	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からが中心で、次いで北海道からの入荷となる。長野では7月いっぱい続いた長雨による肥大不足は回復傾向も、8月の高温で品質低下が懸念される。出荷量の伸びは天候次第となる面もある。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
キヤベツ	27年	15,784	142	122	148	155	群馬 75%
	28年	16,932	96	84	106	100	岩手 14%
	29年	17,258	93	91	104	84	長野 6%
	30年	16,827	78	75	80	79	北海道 2%
	元年	16,788	93	102	95	82	茨城 1%
	5ヵ年平均	16,718	100	94	106	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	16,200	130	140	130	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、岩手からの入荷が中心となる。長梅雨による長雨と低温の影響で、定植の遅れや生育遅れがみられる。また、一部には梅雨明け後の高温による傷みが発生しているが、中旬以降は安定入荷となる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ほうれんそう	27年	909	846	886	948	747	群馬 42%
	28年	749	917	1,109	833	832	栃木 24%
	29年	1,028	681	872	658	584	茨城 14%
	30年	790	798	770	987	666	岩手 7%
	元年	832	797	879	814	725	岐阜 5%
	5ヵ年平均	862	801	899	840	704	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	780	810	820	810	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬など関東高冷地と岩手、岐阜からの入荷が中心となる。各産地とも7月末までの長雨と日照不足により軟弱な生育となっていたが、8月に入って天候回復に伴い生育も回復傾向で、順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

8月13日現在

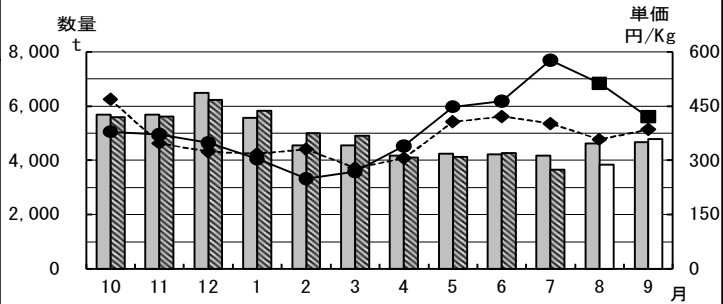
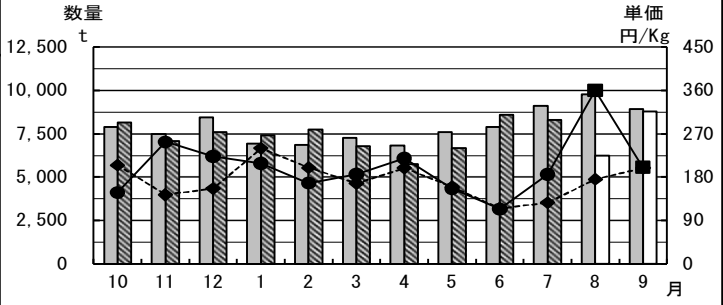
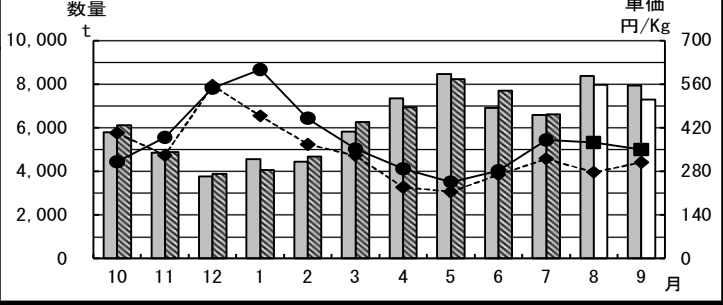
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	913	448	409	493	450	北海道 50%
	28年	856	404	382	402	443	長野 24%
	29年	989	393	399	391	392	秋田 6%
	30年	773	500	472	533	494	富山 4%
	元年	962	376	373	362	399	中国 4%
	5ヵ年平均	899	421	405	432	433	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	970	380	380	380	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野を中心に入荷する。北海道の長ねぎは生育順調で安定した入荷を見込む。長野の白ねぎは少雨の影響で前年より作柄が悪く、細め傾向で、入荷量が減少する見込み。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>					
し	27年	1,998	298	225	359	341	長野 97%
	28年	2,085	232	248	223	236	茨城 3%
	29年	2,297	171	222	171	127	愛知 1%
	30年	2,371	192	179	198	202	
	元年	2,474	199	199	216	185	
	5ヵ年平均	2,245	216	213	230	214	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,300	180	180	180	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に入荷する。長野の野辺山地域は7月の日照不足で生育が非常に悪い。松本地域では順調よく定植できた。9月上旬までは入荷量が若干少ないが、中旬以降は安定した入荷を見込む。 入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	27年	1,263	415	473	452	347	長野 33%
	28年	1,381	351	335	329	404	北海道 18%
	29年	1,419	310	373	307	258	山梨 16%
	30年	1,300	431	428	456	407	群馬 15%
	元年	1,472	339	409	312	290	茨城 5%
	5ヵ年平均	1,367	367	402	368	339	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,300	400	450	400	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、北海道、山梨などから入荷する。夏秋産地の長野や北海道は、成り疲れて入荷量が減少する見込み。抑制産地の山梨は徐々に入荷量が増量し、平年並の入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	5,162	435	400	482	426	青森 22%
	28年	4,788	423	379	410	482	北海道 20%
	29年	5,242	378	380	375	377	秋田 18%
	30年	4,479	484	454	535	465	茨城 9%
	元年	4,662	385	353	389	412	山形 7%
	5ヵ年平均	4,867	420	392	437	431	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,800	420	460	420	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、北海道等の東北以北産地及び茨城からの入荷が中心となる。曇雨天の影響による生育遅れから回復し、順調な生育となっている産地が多い。細物が多い傾向もあるも、順調な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
し	27年	8,192	315	236	389	334	長野 80%
	28年	9,674	229	253	217	216	群馬 12%
	29年	9,391	175	245	173	124	茨城 5%
	30年	8,345	197	186	206	199	岩手 2%
	元年	8,928	199	206	213	177	
	5ヵ年平均	8,906	221	226	236	207	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	8,800	200	220	200	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、群馬などからの入荷となる。長雨と日照不足で遅れていた生育は8月に入り回復するも、病害発生や品質低下の懸念がある。下旬には茨城からの荷が増え、天候次第では一気に増量するか。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
きゅうり	27年	6,876	374	435	388	313	福島 25%
	28年	7,626	314	287	297	369	岩手 16%
	29年	7,790	283	360	280	228	群馬 14%
	30年	6,719	395	406	410	361	埼玉 12%
	元年	7,946	309	398	269	260	茨城 8%
	5ヵ年平均	7,391	332	375	325	304	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,300	350	380	330	340	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北から関東産地への移行時期となる。東北は成り疲れからの回復は一時的で、草勢弱く切り上がり及早まるか。後続の関東産は生育順調で、下旬に向けて増量が見込まれる。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

8月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なし	27年	688	391	345	420	410	山梨 29%
	28年	734	321	292	321	371	愛知 26%
	29年	756	335	340	374	292	徳島 18%
	30年	549	408	355	486	414	茨城 9%
	元年	789	360	354	365	368	群馬 6%
	5ヵ年平均	703	360	336	387	368	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	650	350	350	350	350	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、山梨、徳島などから入荷する。夏秋作が中心となる。台風被害がなければ、9月下旬からハウス物の入荷が始まり、順調な入荷を見込む。愛知の入荷量は前年並の見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
トマト	27年	1,290	477	467	499	466	岐阜 56%
	28年	1,578	350	317	349	406	北海道 27%
	29年	1,290	474	551	480	403	愛知 10%
	30年	1,195	530	590	499	494	熊本 2%
	元年	1,267	482	464	467	540	茨城 2%
	5ヵ年平均	1,324	457	469	453	459	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,200	460	460	460	460	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。7月は長期に渡る日照不足の影響で全体的に生育不良、8月中旬以降は品薄傾向となった。愛知と岐阜の入荷は9月上旬より回復するか。 入荷量と価格はともに前年をやや下回る見込み。</p>						
ミニトマト	27年	439	1,026	899	1,168	1,008	北海道 75%
	28年	463	700	616	659	868	長野 9%
	29年	513	916	1,004	919	836	愛知 5%
	30年	571	919	1,022	875	855	茨城 4%
	元年	531	878	692	1,026	954	青森 2%
	5ヵ年平均	503	888	853	927	901	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	500	900	800	900	1,000	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。8月現在の生育は順調で、価格は若干高値で推移している。新型コロナウイルス感染症の影響で業務需要が低下し、量販店からの注文が多い。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	3,280	411	400	418	417	栃木 29%
	28年	3,860	367	328	330	498	群馬 29%
	29年	4,084	331	364	377	262	茨城 21%
	30年	3,281	424	394	507	372	高知 5%
	元年	3,662	372	340	371	416	埼玉 4%
	5ヵ年平均	3,633	378	363	397	391	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	3,500	400	430	410	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>栃木、群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。7月の長雨による生育遅れや草勢低下は8月に回復するも、高温による品質低下もみられる。9月には安定した入荷となると見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ト マ ト	27年	6,680	449	480	426	443	北海道 21%
	28年	8,556	329	294	321	387	福島 16%
	29年	7,238	429	518	426	359	青森 15%
	30年	6,475	500	516	499	481	千葉 12%
	元年	6,321	463	473	412	532	群馬 8%
	5ヵ年平均	7,054	428	448	411	435	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,700	410	380	430	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道のほか、東北、関東産地などからの入荷となる。東北以北産地はピークを過ぎたが順調な入荷が続く。関東各産地では長梅雨の影響が解消し、生育は概ね順調。千葉では昨年の台風被害により作付減。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	1,674	930	847	1,002	942	北海道 29%
	28年	2,016	629	545	606	773	茨城 16%
	29年	2,107	835	963	873	700	千葉 15%
	30年	2,037	873	996	830	782	青森 14%
	元年	1,874	829	715	886	890	岩手 7%
	5ヵ年平均	1,942	815	815	833	811	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	810	750	850	830	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、東北、関東産地などからの入荷となる。草勢低下や徒長傾向がみられた産地もあるが、生育は概ね順調。天候の安定に伴って品質も安定し、平年並の入荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

8月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	379	518	499	601	534	北海道 31%
	28年	428	380	375	426	434	岩手 28%
	29年	436	402	460	463	393	茨城 18%
	30年	410	488	567	526	523	青森 15%
	元年	439	479	494	544	458	長野 6%
	5ヵ年平均	418	452	478	510	466	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	420	420	420	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、岩手、茨城などの夏秋産地から入荷する。各産地ともに入荷量は盆前後に増加したが、成り疲れから9月上旬の入荷量は減少し、中下旬から増量する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	27年	3,214	112	119	116	107	北海道 99%
	28年	2,783	163	155	183	156	青森 1%
	29年	2,600	104	114	110	95	0 0%
	30年	2,570	123	127	127	114	
	元年	2,775	98	101	100	90	
	5ヵ年平均	2,788	120	123	127	112	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,700	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に青森の残量も入荷する。8月上旬までは非常に高値傾向で推移した。北海道は豊作基調で大玉傾向。各産地が出揃い、順調な入荷が予想される。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
たまねぎ	27年	5,986	89	104	92	81	北海道 96%
	28年	6,574	112	152	127	96	兵庫 2%
	29年	5,508	71	74	71	71	滋賀 1%
	30年	5,044	99	101	105	95	
	元年	4,870	80	82	81	77	
	5ヵ年平均	5,596	91	105	97	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,100	75	80	75	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に兵庫などから入荷する。兵庫はほぼ終了。北海道の栽培面積はほぼ横ばいだが豊作傾向で、L大サイズ中心の入荷となる。入荷量は前年をかなり上回る見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

8月31日現在

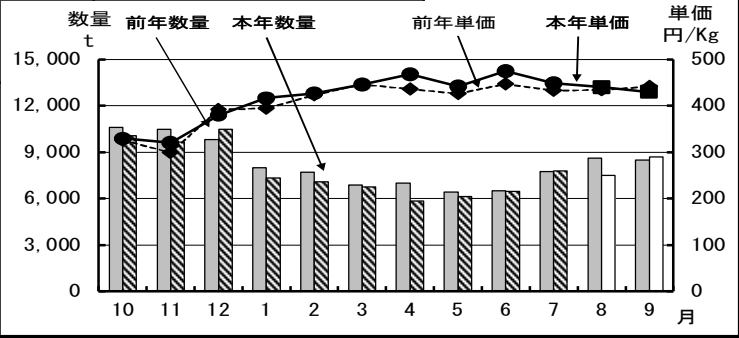
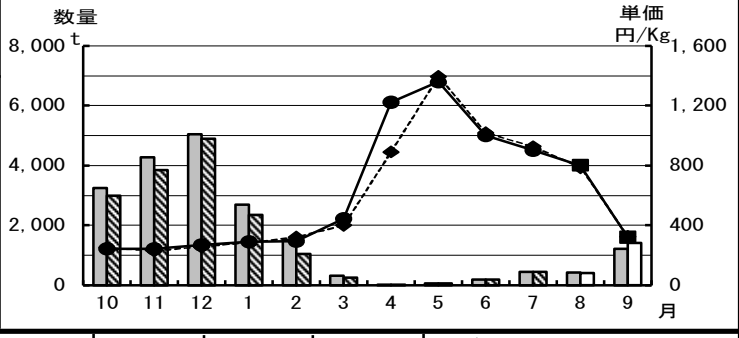
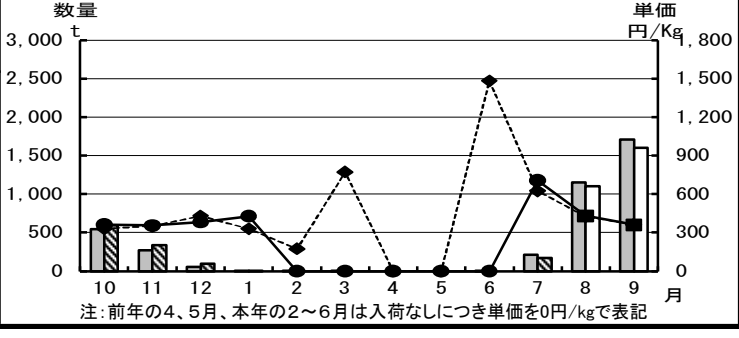
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	1,878	484	443	556	452	岩手 43%
	28年	2,294	309	276	317	340	茨城 37%
	29年	2,266	345	358	363	317	福島 11%
	30年	2,156	434	455	419	427	青森 7%
	元年	2,263	424	420	460	390	高知 1%
	5ヵ年平均	2,171	396	388	418	382	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,300	420	420	410	430	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、茨城、福島などからの入荷となる。8月の高温、乾燥による生育障害や病害の発生はみられるものの、気温の低下と共に回復に向かう。東北産地は9月上中旬にピークを迎え、茨城も増量期と見込む。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。主力の北海道では生育は良好で、玉つき少ないが肥大良好。天候に恵まれ順調に収穫作業が進む。9月中は順調な入荷が見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>							
白菜	27年	8,286	119	120	120	118	北海道 97%
	28年	7,410	171	169	180	163	青森 1%
	29年	7,949	108	119	105	100	千葉 1%
	30年	6,330	128	131	131	120	長崎 1%
	元年	7,129	107	113	110	99	
	5ヵ年平均	7,421	126	130	129	120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	7,200	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。主力の北海道では生育は良好で、玉つき少ないが肥大良好。天候に恵まれ順調に収穫作業が進む。9月中は順調な入荷が見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。北海道では天候良好のため生育は順調。早い作型は肥大も良好だが、中生では高温、干ばつのため肥大に不安がある。順次収穫が進み、安定した入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は安値だった前年並となる見込み。</p>							
たまねぎ	27年	11,897	95	102	94	86	北海道 93%
	28年	11,133	126	143	126	105	中国 2%
	29年	10,651	77	80	77	74	佐賀 2%
	30年	9,440	108	111	110	102	
	元年	9,118	84	85	86	82	
	5ヵ年平均	10,448	98	105	99	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	9,500	85	85	85	85	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。北海道では天候良好のため生育は順調。早い作型は肥大も良好だが、中生では高温、干ばつのため肥大に不安がある。順次収穫が進み、安定した入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は安値だった前年並となる見込み。</p>					
<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。北海道では天候良好のため生育は順調。早い作型は肥大も良好だが、中生では高温、干ばつのため肥大に不安がある。順次収穫が進み、安定した入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は安値だった前年並となる見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

8月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	9,964	371	406	350	365	長野 29%
	28年	9,377	381	370	387	386	フィリピン 12%
	29年	10,006	399	402	414	389	青森 9%
	30年	8,523	431	468	426	414	熊本 8%
	元年	8,462	441	466	439	429	三重 6%
	5ヵ年平均	9,267	403	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	8,700	430	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、りんご、みかんを中心に 入荷する。ぶどうは前年よりやや増量する 見通しで、シャインマスカット中心の入荷 となる。りんごは大玉傾向で入荷量は前年 をかなり上回る見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は 前年をわずかに下回る見込み。						
みかん	27年	1,331	289	501	286	250	三重 42%
	28年	1,348	316	483	321	282	熊本 25%
	29年	1,141	347	539	394	305	宮崎 18%
	30年	1,526	312	416	331	268	佐賀 8%
	元年	1,211	326	430	330	292	愛知 4%
	5ヵ年平均	1,311	317	471	331	278	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	1,400	320	420	330	280		
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	三重を中心に、熊本、宮崎などから入荷 する。6・7月の天候不順の影響は多少あ るが、表年のため入荷増の見込み。ハウス みかんは大玉傾向で、浮き皮等の品質低下 が懸念される。極早生はやや大玉傾向か。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前 年並の見込み。						
なし	27年	1,860	306	321	286	319	長野 65%
	28年	1,911	291	275	288	327	新潟 10%
	29年	2,224	300	313	296	291	富山 8%
	30年	1,516	330	330	329	338	愛知 6%
	元年	1,712	364	367	373	359	秋田 5%
	5ヵ年平均	1,845	316	319	312	324	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2年見通し	1,600	360	350	340	330		
し	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	長野を中心に新潟、愛知などから入荷す る。長野の幸水はやや前進傾向で、入荷量 は前年より減少する見込み。愛知の豊水は 8月下旬から入荷し、9月中旬にはピーク を迎える見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前 年並の見込み。						

注：前年の4、5月、本年の2～6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	37,450	349	373	345	331	青森 11%
	28年	36,650	367	368	368	367	栃木 9%
	29年	37,384	384	394	395	366	長野 9%
	30年	33,740	430	444	431	414	福島 8%
	元年	32,344	460	492	462	430	山梨 8%
	5ヵ年平均	35,514	396	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	30,800	480	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	なし、りんご、みかん、ぶどうなどが入荷する。りんごは着果量や肥大は例年通りも、高温による着色不良が散見される。ぶどうは梅雨の長雨の影響による病害や、高温による着色不良が懸念される。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						
みかん	27年	3,228	269	465	264	229	宮崎 37%
	28年	3,390	292	498	286	253	熊本 24%
	29年	2,824	318	688	347	261	佐賀 19%
	30年	3,311	311	416	311	268	愛媛 8%
	元年	2,969	302	498	292	268	静岡 3%
	5ヵ年平均	3,144	298	508	299	256	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	3,000	310	490	310	260	
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ハウスみかんは前年より入荷量が少ないまま、9月下旬で切り上がる見込み。露地の極早生みかんは9月上旬から宮崎、熊本中心に入荷始まる。Sサイズ中心に入荷は順調で、引き合いも強まる見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに上回る見込み。						
なし	27年	10,318	247	270	233	233	栃木 32%
	28年	10,388	262	254	264	270	福島 20%
	29年	11,462	260	281	261	239	茨城 17%
	30年	9,938	280	298	273	264	千葉 12%
	元年	9,540	330	343	331	300	長野 5%
	5ヵ年平均	10,329	275	288	271	260	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,500	430	440	430	420	
なし	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	本年産のなしは、幸水、豊水を始めとして4月の開花期の低温による着果不良や、梅雨の長雨や日照不足による影響で作況は悪く、入荷量が少ないまま推移する見込み。その影響で価格は高止まりするか。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。			注：前年の4、5月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表			

切花・鉢花の9月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	27年	2,100	58		
		28年	2,302	52		
		29年	2,214	51		
30年		1,702	62			
元年		1,888	61			
5ヶ年平均	2,041	56				
2年見通し	1,700	60				
概要	<p>愛知、長野などから入荷する。施設栽培は生育順調であるが、路地作は梅雨期の長雨、日照不足で生育に大きく影響が出ている。中旬からは彼岸需要もあり、動きが活発となる。</p>					
小 ぎ	実績	27年	2,100	40		
		28年	1,847	33		
		29年	2,006	28		
30年		1,599	38			
元年		1,595	40			
5ヶ年平均	1,829	36				
2年見通し	1,550	40				
概要	<p>愛知、長野、岩手、埼玉、奈良などから入荷する。梅雨期の長雨、日照不足、8月からの高温による障害が出ており、彼岸期の中旬までの出荷に対して、秀品率が低下し、上位等級が少なそうである。輸入マムの入荷減に伴い、引合は強いと思われる。</p>					
カー ネ ー シ ョ ン	実績	27年	1,250	50		
		28年	1,240	41		
		29年	1,164	44		
30年		1,259	40			
元年		1,198	47			
5ヶ年平均	1,222	44				
2年見通し	1,200	45				
概要	<p>長野、北海道を中心に入荷する。長野の出荷がなだらかになる作付けになっているため、入荷量は落ち着き、だだらした入荷となる見込み。</p>					
か す み	実績	27年	100	150		
		28年	144	84		
		29年	98	157		
30年		96	134			
元年		101	133			
5ヶ年平均	108	128				
2年見通し	100	130				
概要	<p>長野、福島から入荷する。上中旬は数量はありそうだが、下旬から減少しそう。延期となっているブライダルが動き始めれば需要は高まるが、新型コロナウイルス感染症の第2波の影響で先が見えない状況。</p>					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	27年	380	180	
		28年	375	152	
		29年	332	177	
		30年	289	184	
		元年	329	170	
	5ヶ年平均		341	172	
	2年見通し		300	175	
概要	<p>オリエンタルは北海道、新潟、岐阜、埼玉から入荷する。7、8月の猛暑により上中旬は葉焼け症状の物の出荷が懸念される。数量は前年並か。LAは埼玉、新潟から入荷し、前年並の出荷量を見込む。鉄砲は兵庫、愛媛から入荷する。台風の影響が今のところないため、昨年並の数量が見込まれる。</p>				
洋	実績	27年	560	70	
		28年	524	68	
		29年	483	71	
		30年	410	89	
		元年	514	68	
	5ヶ年平均		498	73	
	2年見通し		450	70	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国内産に加え、輸入物が入荷する。デンファレはアンナが増えてくる見込み。価格も落ち着きがみられるが、航空便での入荷となるため、昨年よりは減少する見込み。オンシジウムの台湾産は徐々に下位等級が送花する。価格も安価になるので、買いやすく動きも良くなる見込み。</p>				
ば	実績	27年	860	50	
		28年	754	73	
		29年	757	68	
		30年	555	66	
		元年	710	73	
	5ヶ年平均		727	66	
	2年見通し		700	70	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、山形などから入荷する。9月は敬老、お彼岸等のイベントがあるが、業務需要はコロナ禍の再燃で足踏みし、エリアによってさまざまな影響が出ている。</p>				
枝	実績	27年	1,700	45	
		28年	1,515	48	
		29年	1,555	48	
		30年	1,346	51	
		元年	1,352	55	
	5ヶ年平均		1,494	49	
	2年見通し		1,300	50	
概要	<p>実物などの出荷が本格的に始まり、花ナス、ツル梅、フォックス、実バラ、ヤブサンザシなどが、草花もシュウメイギク、ワレモコウ、女郎花、フジバカマ、リオンなどが入荷する。今年は例年より雨が多く、高温の為草丈が短く、山取りは少なめ。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	27年	19,560	798	
		28年	21,815	784	
		29年	20,063	830	
		30年	19,943	845	
		元年	23,289	776	
	5ヶ年平均		20,934	805	
	2年見通し		22,000	773	
概要	<p>入荷量はやや減少するか。原木類の輸入減少が大きな要因で、7号～10号サイズ中心の入荷となり、5号未満は品薄になる見込み。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（62.1%）、2位鹿児島（10.9%）、3位沖縄（6.0%）。</p>				
オンシジウム	実績	27年	4,321	659	
		28年	4,307	613	
		29年	2,566	735	
		30年	2,969	556	
		元年	2,097	659	
	5ヶ年平均		3,393	624	
	2年見通し		2,000	600	
概要	<p>入荷量はやや減少するか。残暑の厳しさによる天候問題と生産者の高齢化による作付け量の減少もあり、9月の出荷量は前年比で1割から2割程度減少する見込み。販売店での花持ちも考慮して、固めでの出荷をお願いしたい。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（64.6%）、2位高知（17.4%）、3位長崎（15.6%）となっている。</p>				
アンズ	実績	27年	5,978	775	
		28年	6,806	688	
		29年	5,640	905	
		30年	5,810	896	
		元年	7,888	754	
	5ヶ年平均		6,424	796	
	2年見通し		8,000	750	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付けに大きな変更はないため、9月の入荷量は前年と同様の見込み。サイズは6号・4号主体での入荷が予想される。色別では赤・ピンクが中心と思われる。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（92.2%）、2位長崎（5.0%）、3位岐阜（1.1%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シヤコバ	実績	27年	29,935	424	
		28年	29,303	438	
		29年	26,225	422	
		30年	21,093	415	
		元年	23,690	414	
	5ヶ年平均	26,049	423		
	2年見通し	23,500	417		
概要	<p>入荷量は前年並か。8月はほぼ埼玉の山上げ物のみだが、9月からは愛知のクーラー物の出荷が始まる。例年より盆明けの暑さが厳しいため、需要が9月にずれ込むと予想される。価格面では、3.5号～5号の引き合いが強く、6号以上はやや苦戦か。今年は敬老の日が遅く、4連休にもなるため、敬老商材の価格持ち直しを期待したい。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(53.8%)、2位愛知(45.2%)、3位茨城(0.5%)となっている。</p>				
シク	実績	27年	160,315	148	
		28年	169,833	143	
		29年	145,689	155	
		30年	116,605	158	
		元年	174,798	147	
	5ヶ年平均	153,448	150		
	2年見通し	170,000	147		
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少するか。昨年は競売価格も厳しく、特に今季のガーデンシクラメン(3号ポット)の生産量は全国的に若干ではあるが減少傾向。出荷スタートは例年通り9月10日過ぎの見込み。残暑や新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される。気候次第ではあるが4号以上の商品は9月20日過ぎを目途に徐々に出荷が始まる見込み。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野(58.0%)、2位愛知(23.2%)、3位その他(7.4%)となっている。</p>				
カラ	実績	27年	53,038	195	
		28年	60,907	188	
		29年	48,405	195	
		30年	36,295	205	
		元年	47,055	199	
	5ヶ年平均	49,140	196		
	2年見通し	47,000	198		
概要	<p>岐阜の生産者が生産をやめたため、入荷量は前年より若干減少するか。盆明けより埼玉の山上げ物のお荷が増え、敬老の日に向けピークを迎える。価格面では山上げ物の3.5号ポット、5～6号の八重咲品種の引き合いが強い。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(65.8%)、2位岐阜(19.7%)、3位茨城(11.8%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.567
令和2年9月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434